東北地方整備局「くしの歯作戦啓開チーム」・「航路啓開チーム」

顕彰理由

平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分に発生した「東日本大震災」は高さ 15mを超える津波を伴い、東日本太平洋沿岸を中心に広い範囲において未曾有の被害をもたらした。大津波による家屋や自動車・船舶などが大量のがれきとなり道路や港湾を塞いだため、各職域の職員は発災直後余震や津波の危険性のある中、一刻も早い人命救助や避難者への物資支援、すみやかな復旧活動のため、道路や港湾のルートを切り開く「啓開」を昼夜を問わず多くの関係者と連携して短期間で成し遂げて輸送の確保に貢献し、もって公務の信頼の確保と向上に寄与した。

「くしの歯作戦啓開チーム」・「航路啓開チーム」活動詳細

≪くしの歯作戦啓開チーム≫　東北地方整備局では地震発生直後から、第１ステップ（内陸の東北自動車道と国道４号の縦軸ラインの確保）、第２ステップ（内陸から沿岸への横軸ラインの確保）、第３ステップ（太平洋沿岸の国道６号と45号の路線を確保）の「くしの歯作戦」を進めた。余震や大津波警報が続く中、オイルタンク等の危険物も多くあったことに加えて、がれきの中に被災者がいないか慎重に確認しながらの作業は困難を極めたが、警察、地元自治体等とも調整を図り、「一人でも多くの命を助けるために」との思いで昼夜を問わず作業を進め、３月15日までに横断軸16ルートのうち15ルートを確保し、さらに３月18日には国道６号と45号の97%について啓開を終了させ、緊急車両の通行や支援物資の輸送ができるようになった。

≪航路啓開チーム≫　海上ルートでは津波注意報解除の翌朝から啓開作業を開始した。津波被害を免れた地元４船団を優先啓開港（宮古港、釜石港、仙台塩釜港）に投入するとともに、全国から作業船団を吹雪舞う悪天候を突いて東北に集結させた。船の燃料不足、浮遊がれき、海中の濁り、余震に伴う津波の恐れ等を克服しての作業であった。この結果、3月16日の釜石港を皮切りに、23日までに被災した主要９港全てで船舶による緊急物資の搬入が可能となった。特に、仙台塩釜港では21日から、八戸港では25日から油タンカーの入港が始まり、ガソリン不足等の解消に繋がった。